

令和4年度財務書類(概要版)

令和6年3月
愛川町

目次

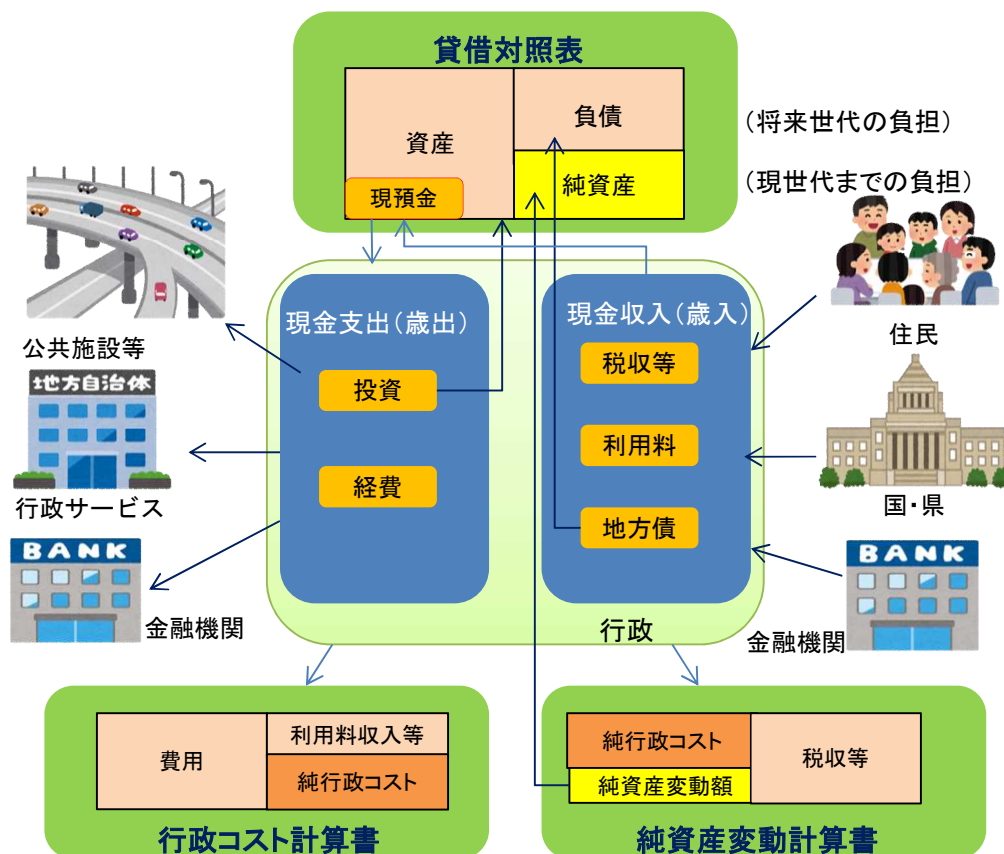
1 新公会計制度について	1
2 令和4年度財務書類のポイント	2~3
3 貸借対照表	4~5
4 貸借対照表(前年度比較)	6~7
5 行政コスト計算書及び純資産変動計算書.	8~9
6 行政コスト計算書及び純資産変動計算書(前年度比較)	10~11
7 資金収支(キャッシュフロー)計算書.	12~13
8 資金収支(キャッシュフロー)計算書(前年度比較)	14~15

本文中、各表の金額は表示単位未満を四捨五入しており、端数処理の関係上合計が一致しない場合があります。
各表、金額に()がある場合、金額のマイナスを表しています。

1 新公会計制度について

愛川町が公表した財務書類は、行政運営の結果を住民の皆様に対して報告することを目的として、企業会計の手法に倣い、複式簿記・発生主義による新公会計制度に基づいて作成しております。

従来の単式簿記・現金主義による官庁会計制度に比べて、行政運営の結果に対する説明責任をより適切に果たすことができ、施策内容の検証やマネジメントへの活用も可能になります。



各財務書類は、住民の皆様が税負担と行政サービスの実施状況との対比等、行政運営の結果を財務面から明確に示すことができます。

地方公会計制度導入の意義

- ☞ 正確なコスト情報の把握: 減価償却費や、退職給与引当金等、単式簿記では把握できないコストを把握することで、行政サービスに掛かるコストを多角的に分析することが可能
- ☞ 正確なストック情報の把握: 固定資産台帳を整備することにより、自治体が保有する資産を正確に把握し、財政運営に有効活用することが可能

統一的な基準について

平成27年1月に国(総務省)から、固定資産台帳の整備と複式簿記の導入を前提とした「統一的な基準」が示され、それに基づく財務書類の作成が要請されました。統一的な基準は、開始時の貸借対照表を作成し、現金取引の情報だけでなく、ストック・フロー情報をすべて網羅した上で、個々の取引情報を複式記帳して財務書類が作成され、各自治体間での比較可能性が確保されることとなります。

2 令和4年度 愛川町財務書類のポイント

作成基準日： 令和5年3月31日

住民一人当たり分析：39,570人

		貸借対照表			行政コスト計算書			
		資産	負債	純資産	経常費用	経常収益	臨時損益	純行政コスト
特別会計	一般会計	495	84	411	141	6	0	134
	一般会計等(単純合算)	495	84	411	141	6	0	134
	一般会計等相殺	0	0	0	0	0	0	0
	一般会計等	495	84	411	141	6	0	134
	国民健康保険特別会計	2	0	2	47	0	(0)	47
	下水道事業特別会計	0	0	0	0	0	0	0
	公共下水道事業会計	147	125	21	10	5	0	5
	水道事業会計	74	25	49	5	5	(0)	0
	介護保険特別会計	4	0	4	32	0	(0)	32
	後期高齢者医療特別会計	0	0	0	6	0	0	6
	全体会計(単純合算)	722	234	488	241	17	0	224
	全体会計修正	0	0	0	0	0	0	0
	全体会計相殺	(4)	(1)	(4)	(14)	0	0	(14)
	全体会計	718	234	484	227	17	0	210
愛川町土地開発公社	3	0	3	1	1	(2)	2	
愛川町社会福祉協議会	3	1	2	2	1	0	1	
厚木愛甲環境施設組合	6	4	2	0	0	0	0	
神奈川県町村システム共同事業組合	0	0	0	1	0	0	1	
神奈川県後期高齢者医療広域連合	1	0	1	44	0	0	44	
連結会計(単純合算)	731	239	492	275	19	(1)	258	
連結会計修正	0	0	0	0	0	0	0	
連結会計相殺	10	10	(0)	(10)	0	0	(10)	
連結会計	741	249	492	265	19	(1)	248	

一般会計と特別会計について

愛川町は、学校教育や福祉・衛生、道路、上下水道などの施設整備や行政サービスを提供しております。そのうち使い道が特定されていない財源を一般財源といい、一般会計は地方自治体の一般財源の歳入と歳出を経理する会計のことです。これに対し、特定の事業を行う場合や特定の歳入を特定の歳出にあてる場合は、条例によって個別に会計を立てることができ、これを特別会計といいます。

例)介護保険制度では、介護保険料などを歳入とし、介護サービスの提供などを歳出とする特別会計を市区町村に設置するよう義務づけており、一般会計を圧迫することのないよう歳入と歳出のバランスをとることが求められています。

純資産変動計算書				資金収支計算書			
財源	本年度 差額	固定資産 変動等	本年度 変動額	業務活動 収支	投資活動 収支	財務活動 収支	本年度 収支
131	(3)	0	(3)	14	(9)	(5)	(0)
131	(3)	0	(3)	14	(9)	(5)	(0)
0	0	0	0	0	0	0	0
131	(3)	0	(3)	14	(9)	(5)	(0)
47	(0)	0	(0)	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	1	2	4	(0)	(3)	0
0	0	0	0	2	(3)	1	1
32	0	0	0	0	0	0	1
6	0	0	0	0	0	0	0
221	(3)	2	(1)	20	(12)	(7)	2
0	0	0	0	0	0	0	0
(13)	1	(2)	(1)	1	1	(1)	0
208	(2)	(0)	(2)	20	(11)	(8)	2
0	(2)	0	(2)	0	0	(1)	0
0	(0)	0	(0)	(0)	0	0	(0)
1	1	0	1	0	(2)	2	0
1	0	(0)	0	0	(0)	0	0
43	(0)	0	(0)	(0)	0	(0)	(0)
254	(3)	0	(3)	21	(13)	(7)	1
0	0	0	0	0	0	0	0
(10)	0	0	0	0	0	0	0
244	(3)	0	(3)	21	(13)	(7)	1

(億円)

令和4年度末における資産合計は、全体会計が718億円、連結会計で741億円、負債合計は全体会計が234億円、連結会計で249億円となりました。また純資産額は全体会計が484億円、連結会計で492億円、純資産比率は、全体会計が67%、連結会計が66%となりました。

純行政コストは、全体会計が210億円、連結会計で248億円、また住民一人あたり、全体会計が53万円、連結会計で63万円となりました。

純資産変動額は、全体会計が2億円の減少、連結会計で3億円の減少となり、令和4年度末における純資産残高は、全体会計が484億円、連結会計が492億円となりました。

資金収支は、全体会計が1.7億円の余剰、連結会計で1.3億円の余剰となり、令和4年度末における現金預金残高は、全体会計が16億円、連結会計が17億円となりました。

3 貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末時点における、愛川町の資産・負債の財政状態を明らかにすることを目的として作成しており、資産、負債、純資産の3つの要素から構成されています。

固定資産

行政活動のために使用することを目的として保有する資産、1年を超えて現金化される資産など。

☞ 事業用資産

学校や庁舎など、公共用に使用するための資産

☞ インフラ資産

道路、橋梁等の資産

☞ 物品

自動車等取得価額50万円以上の物品

☞ 無形固定資産

ソフトウェアなど

☞ 投資その他の資産

投資及び出資金、長期貸付金、基金、長期延滞債権及びその他

流動資産

現金預金、短期貸付金、基金等。

固定負債

1年を超えて返済時期が到来する負債。

流動負債

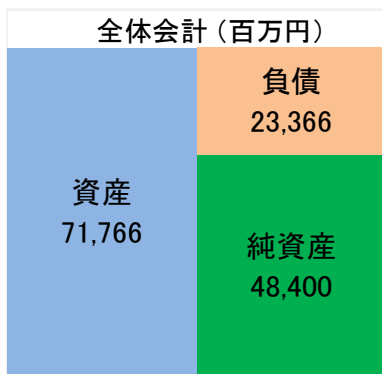
1年以内に返済すべき負債。

純資産合計

資産と負債の差額。資産形成のうち現世代が負担した部分。

純資産比率

総資産に対する、純資産の比率。減少した場合は将来世代に負担が先送りされることとなります。



	令和4年度(百万円)		
	一般会計等	全体会計	連結会計
固定資産	47,288	68,063	70,263
事業用資産	24,899	24,899	25,436
土地	12,844	12,844	13,105
建物	11,434	11,434	11,434
工作物	496	496	496
その他	124	124	400
インフラ資産	18,441	37,797	37,797
土地	7,497	7,853	7,853
建物	0	339	339
工作物	10,927	29,512	29,512
その他	17	93	93
物品	953	1,798	1,809
無形固定資産	33	940	941
投資その他の資産	2,962	2,628	4,280
流動資産	2,246	3,703	3,843
現金預金	757	1,573	1,673
未収金	61	263	271
短期貸付金	0	0	0
基金	1,433	1,773	1,795
棚卸資産	0	40	49
その他	0	75	75
徴収不能引当金	(5)	(20)	(20)
資産合計	49,534	71,766	74,106
固定負債	7,309	21,357	22,880
地方債等	5,596	12,910	13,316
長期未払金	0	0	0
退職手当引当金	1,242	1,242	2,357
その他	472	7,206	7,207
流動負債	1,091	2,009	2,018
1年内償還予定地方債等	743	1,473	1,473
未払金	0	149	153
賞与等引当金	200	215	215
預り金	0	19	22
その他	148	153	155
負債合計	8,400	23,366	24,898
純資産合計	41,134	48,400	49,208
負債及び純資産合計	49,534	71,766	74,106
純資産比率	83%	67%	66%

行政サービスを提供するための資産と、その資金の調達状況を示しており、また現役世代と将来世代の負担の関係を明確にすることができます。

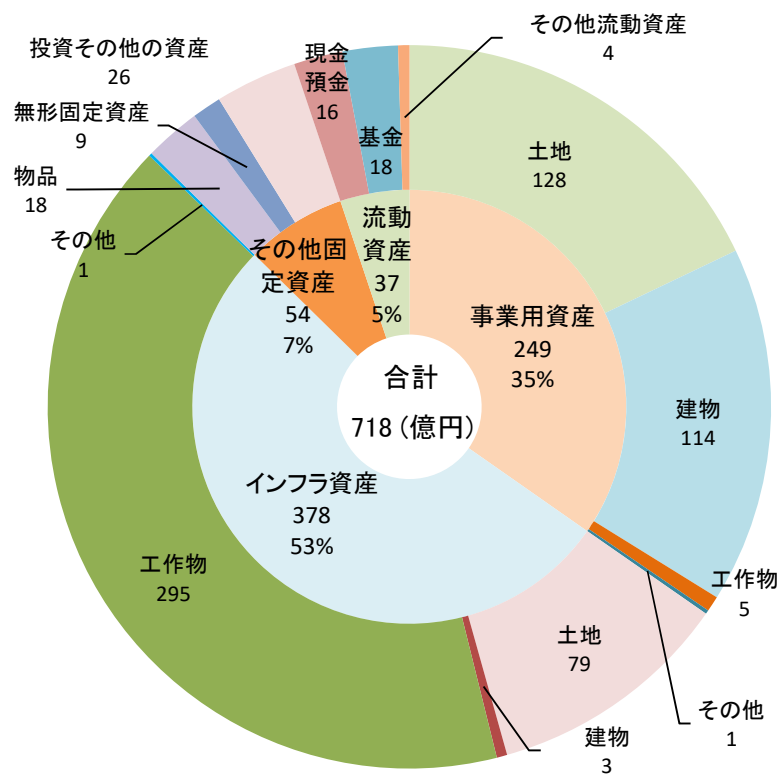
住民1人当たり(千円)		
一般会計等	全体会計	連結会計
1,195	1,720	1,776
629	629	643
325	325	331
289	289	289
13	13	13
3	3	10
466	955	955
189	198	198
0	9	9
276	746	746
0	2	2
24	45	46
1	24	24
75	66	108
57	94	97
19	40	42
2	7	7
0	0	0
36	45	45
0	1	1
0	2	2
(0)	(1)	(1)
1,252	1,814	1,873
185	540	578
141	326	337
0	0	0
31	31	60
12	182	182
28	51	51
19	37	37
0	4	4
5	5	5
0	0	1
4	4	4
212	590	629
1,040	1,223	1,244
1,252	1,814	1,873

令和4年度末における資産合計は、全体会計が718億円、連結会計で741億円となりました。内訳は、全体会計で事業用資産249億円(35%)、インフラ資産が378億円(53%)、その他固定資産が54億円(7%)、及び流動資産が37億円(5%)となっております。

負債合計は、全体会計が234億円、連結会計で249億円となり、また地方債残高は、全体会計が144億円、連結会計で148億円となっております。

純資産合計は、全体会計が484億円、連結会計で492億円となり、また純資産比率は、全体会計が67%、連結会計で66%となっております。

住民一人当たり資産額は、全体会計が181万円、連結会計で187万円、負債額は、全体会計が59万円、連結会計で63万円となり、地方債の残高は、全体会計が36万円、連結会計で37万円となっております。



4 貸借対照表（前年度比較）

	前年度差額(百万円)			増減率		
	一般会計等	全体会計	連結会計	一般会計等	全体会計	連結会計
固定資産	(978)	(1,561)	(1,308)	-2.0%	-2.2%	-1.8%
事業用資産	(820)	(820)	(563)	-3.2%	-3.2%	-2.2%
土地	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
建物	(814)	(814)	(814)	-6.6%	-6.6%	-6.6%
工作物	(59)	(59)	(59)	-10.6%	-10.6%	-10.6%
その他	53	53	309	73.3%	73.3%	340.4%
インフラ資産	(304)	(642)	(642)	-1.6%	-1.7%	-1.7%
土地	104	104	104	1.4%	1.3%	1.3%
建物	(0)	157	157	-100.0%	86.3%	86.3%
工作物	(408)	(884)	(884)	-3.6%	-2.9%	-2.9%
その他	0	(19)	(19)	0.0%	-17.0%	-17.0%
物品	(88)	(111)	(110)	-8.5%	-5.8%	-5.7%
無形固定資産	(8)	(79)	(79)	-20.0%	-7.7%	-7.7%
投資その他の資産	242	92	86	8.9%	3.6%	2.1%
流動資産	125	244	(2)	5.9%	7.1%	-0.1%
現金預金	(7)	170	138	-1.0%	12.1%	9.0%
未収金	(21)	(27)	(27)	-26.0%	-9.2%	-9.2%
短期貸付金	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
基金	152	91	90	11.9%	5.4%	5.3%
棚卸資産	0	(2)	(214)	0.0%	-4.4%	-81.4%
その他	0	11	11	0.0%	17.0%	17.0%
徴収不能引当金	2	0	0	-23.0%	-1.4%	-1.4%
資産合計	(854)	(1,317)	(1,310)	-1.7%	-1.8%	-1.7%
固定負債	(583)	(1,080)	(927)	-7.4%	-4.8%	-3.9%
地方債等	(362)	(636)	(483)	-6.1%	-4.7%	-3.5%
長期未払金	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
退職手当引当金	(74)	(74)	(73)	-5.6%	-5.6%	-3.0%
その他	(148)	(371)	(371)	-23.8%	-4.9%	-4.9%
流動負債	11	(22)	(58)	1.0%	-1.1%	-2.8%
1年内償還予定地方債等	12	(18)	(52)	1.7%	-1.2%	-3.4%
未払金	0	2	(1)	0.0%	1.2%	-0.5%
賞与等引当金	2	2	2	1.2%	1.1%	1.1%
預り金	0	(4)	(4)	0.0%	-18.0%	-16.3%
その他	(4)	(4)	(4)	-2.6%	-2.5%	-2.5%
負債合計	(572)	(1,102)	(985)	-6.4%	-4.5%	-3.8%
純資産合計	(282)	(214)	(325)	-0.7%	-0.4%	-0.7%
負債及び純資産合計	(854)	(1,317)	(1,310)	-1.7%	-1.8%	-1.7%

前年度差額 = 令和4年度決算金額 - 令和3年度決算金額

増減率 = 令和4年度決算金額 ÷ 令和3年度決算金額 - 1

令和4年度の資産合計は、対前年度比全体会計が 13.2億円の減少(▲1.8%)、連結会計で13.1億円の減少(▲1.7%)となりました。

事業用資産は、対前年度比全体会計が 8.2億円の減少(▲3.2%)、連結会計で5.6億円の減少(▲2.2%)となり、インフラ資産は、対前年度比全体会計が 6.4億円の減少(▲1.7%)、連結会計で6.4億円の減少(▲1.7%)となりました。

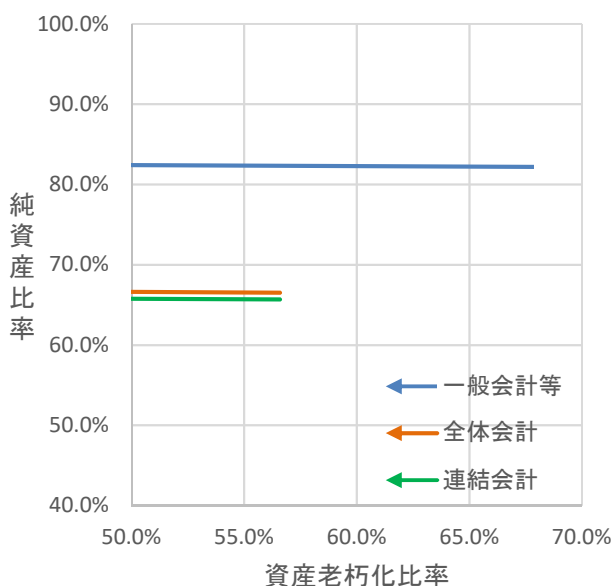
流動資産は、対前年度比全体会計が 2.4億円の増加(+7.1%)、連結会計で2百万円の減少(▲0.1%)となりました。

負債合計額は、対前年度比全体会計が 11.0億円の減少(▲4.5%)、連結会計で9.9億円の減少(▲3.8%)となりました。

固定負債は、対前年度比全体会計が 10.8億円の減少(▲4.8%)、連結会計で9.3億円の減少(▲3.9%)となり、流動負債は、対前年度比全体会計が 0.2億円の減少(▲1.1%)、連結会計で0.6億円の減少(▲2.8%)となりました。

地方債残高は、対前年度比全体会計が 6.5億円の減少、連結会計で5.3億円の減少となりました。

令和4年度の純資産合計は、対前年度比全体会計が 2.1億円の減少(▲0.4%)、連結会計で3.3億円の減少(▲0.7%)となり、純資産比率は、対前年度比全体会計が増加(+0.9%)、連結会計で増加(+0.7%)となりました。



有形固定資産減価償却率＝
(資産老朽化比率)

減価償却累計額
有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額
※減価償却累計額、有形固定資産合計からは「物品」を除く

5 行政コスト計算書及び純資産変動計算書

行政コスト計算書は、1年間に行政サービスにどれだけのコストがかかっているか等、その内容の分析を行うことを目的として作成しています。経常費用から経常収益を控除して、純経常行政コストが計算され、さらに臨時損失及び利益を加算、控除して純行政コストを計算します。

経常費用

人件費(人に掛かるコスト)、物件費(物に掛かるコスト)、維持管理費、減価償却費用等、行政サービスを提供するために要した業務費用と、補助金、社会保障給付等の移転費用で計算されます。

経常収益

行政サービスの対価として、直接的に得られた収益(使用料、手数料)及びその他の収益で計算されます。

純行政コスト

資産形成や負債の減少に関係しない行政サービスを提供するために要したコストのうち、受益者負担による収益以外の地方税や補助金等で賄われなければならないコストです。

純資産合計

資産と負債の差額。資産形成のうち現世代が負担した部分。

総資産比率

総資産に対する、純資産の比率。減少した場合は将来世代に負担が先送りされることとなります。

本年度差額

財源(税収等および国県等補助金)から純行政コストを控除して計算されます。固定資産等の形成の原資となります。本年度は全体会計が▲2.0億円、連結会計で▲3.3億円となっております。

資産評価差額

固定資産や、有価証券等の評価差額を計上します。本年度は全体会計が、+0.0億円、連結会計が+0.0億円となっております。

無償所管換等

無償で譲渡または取得した固定資産の評価等を計上します。本年度は、全体会計で+0.4億円、連結会計で+0.4億円となっております。

	令和4年度(百万円)		
	一般会計等	全体会計	連結会計
経常費用	14,077	22,716	26,472
業務費用	8,634	10,368	10,795
人件費	3,488	3,719	3,850
物件費	2,923	3,300	3,465
維持補修費	95	118	118
減価償却費	1,892	2,793	2,798
その他	237	438	564
移転費用	5,444	12,349	15,677
補助金等	2,214	10,211	13,539
社会保障給付	2,123	2,123	2,123
他会計への繰出金	1,092	0	0
その他	15	15	16
経常収益	638	1,664	1,850
使用料及び手数料	329	1,300	1,300
その他	309	364	550
純経常行政コスト	13,440	21,052	24,622
臨時損失	0	1	162
臨時利益	24	24	24
純行政コスト	13,416	21,029	24,760
財源	13,098	20,827	24,435
税収等	9,586	13,006	13,989
国県等補助金	3,512	7,821	10,446
本年度差額	(318)	(202)	(325)
資産評価差額	0	0	0
無償所管換等	37	37	37
その他	0	(49)	(36)
本年度純資産変動額	(282)	(214)	(325)
前年度末純資産残高	41,415	48,614	49,533
本年度末純資産残高	41,134	48,400	49,208
1人当り純資産残高	1,040	1,223	1,244

減価償却費用

長期間にわたって利用する資産を購入した場合、その購入価額をいったん資産として計上した後、当該金額を資産の耐用年数期間中に費用として認識される金額。

純資産変動計算書は、純資産が1年間でどのような要因で変動したのかを、分析することを目的として作成しています。純資産が増加する場合は、現世代の負担によって将来世代が利用できる公共施設や社会資本等を形成したことになります。

住民1人当り(千円)		
一般会計等	全体会計	連結会計
356	574	669
218	262	273
88	94	97
74	83	88
2	3	3
48	71	71
6	11	14
138	312	396
56	258	342
54	54	54
28	0	0
0	0	0
16	42	47
8	33	33
8	9	14
340	532	622
0	0	4
1	1	1
339	531	626

令和4年度における業務費用は、全体会計が104億円、連結会計で108億円となりました。また移転費用は、全体会計で123億円、連結会計で157億円、となっております。

経常収益は、全体会計が17億円、連結会計で19億円となり、純行政コストは、全体会計が210億円、連結会計で248億円となっております。

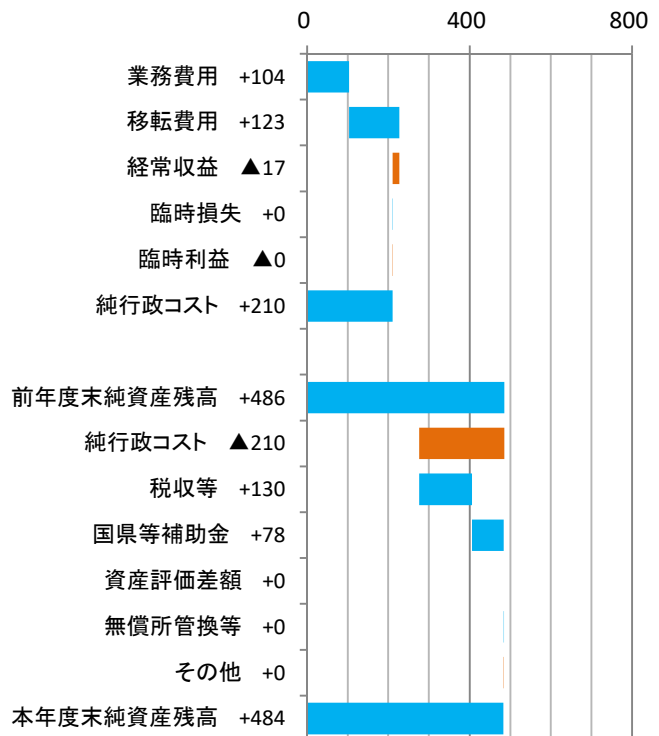
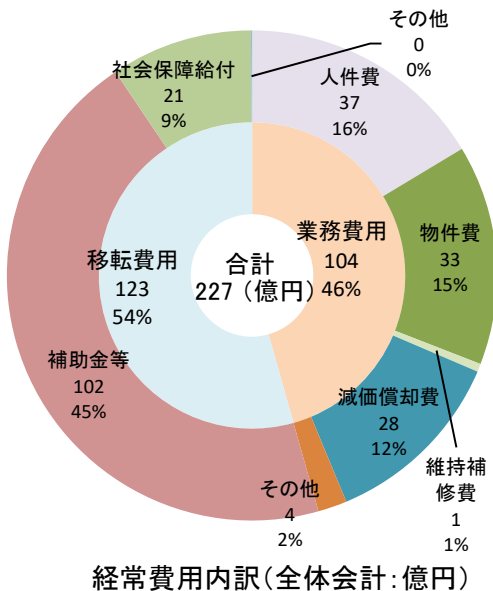
住民一人あたり純行政コストは、全体会計が53万円、連結会計で63万円となりました。

受益者負担比率は、全体会計が7%、連結会計で7%となりました。

令和4年度の純資産変動額は、全体会計が2億円の減少、連結会計で3億円の減少となり、本年度末の純資産残高は、全体会計が484億円、連結会計で492億円となっております。

受益者負担比率

使用料、手数料など行政サービスに係る受益者負担金額(経常収益)の経常費用に対する比率。



純行政コスト及び純資産残高内訳(全体会計:億円)

6 行政コスト計算書および純資産計算書（前年度比較）

	前年度差額(百万円)			増減率		
	一般会計等	全体会計	連結会計	一般会計等	全体会計	連結会計
経常費用	36	(138)	57	0.3%	-0.6%	0.2%
業務費用	350	391	268	4.2%	3.9%	2.5%
人件費	32	44	47	0.9%	1.2%	1.2%
物件費	177	225	248	6.4%	7.3%	7.7%
維持補修費	10	5	(7)	11.3%	4.2%	-5.5%
減価償却費	8	(8)	(8)	0.4%	-0.3%	-0.3%
その他	124	125	(13)	109.3%	40.1%	-2.2%
移転費用	(314)	(528)	(211)	-5.5%	-4.1%	-1.3%
補助金等	(385)	(555)	(238)	-14.8%	-5.2%	-1.7%
社会保障給付	23	23	23	1.1%	1.1%	1.1%
他会計への繰出金	44	0	0	4.2%	0.0%	0.0%
その他	4	4	4	36.5%	36.2%	33.7%
経常収益	165	154	74	34.8%	10.2%	4.1%
使用料及び手数料	30	22	22	10.2%	1.7%	1.7%
その他	134	132	52	76.7%	56.8%	10.4%
純経常行政コスト	(129)	(292)	(17)	-1.0%	-1.4%	-0.1%
臨時損失	0	(3)	159	0.0%	-82.6%	4971.4%
臨時利益	12	12	12	93.0%	93.7%	93.7%
純行政コスト	(140)	(306)	131	-1.0%	-1.4%	0.5%
財源	(288)	(423)	(60)	-2.1%	-2.0%	-0.2%
税収等	311	391	402	3.4%	3.1%	3.0%
国県等補助金	(598)	(814)	(462)	-14.6%	-9.4%	-4.2%
本年度差額	(148)	(117)	(191)	86.6%	138.7%	141.5%
資産評価差額	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
無償所管換等	15	15	15	67.4%	67.4%	67.4%
その他	0	(49)	149	0.0%	0.0%	-80.4%
本年度純資産変動額	(133)	(151)	(27)	89.4%	241.2%	8.9%
前年度末純資産残高	(149)	(63)	(299)			
本年度末純資産残高	(282)	(214)	(325)	-0.7%	-0.4%	-0.7%

前年度差額 = 令和4年度決算金額 - 令和3年度決算金額

増減率 = 令和4年度決算金額 ÷ 令和3年度決算金額 - 1

令和4年度の経常費用は、対前年度比全体会計が 1.4億円の減少(▲0.6%)、連結会計で0.6億円の増加(+0.2%)となりました。

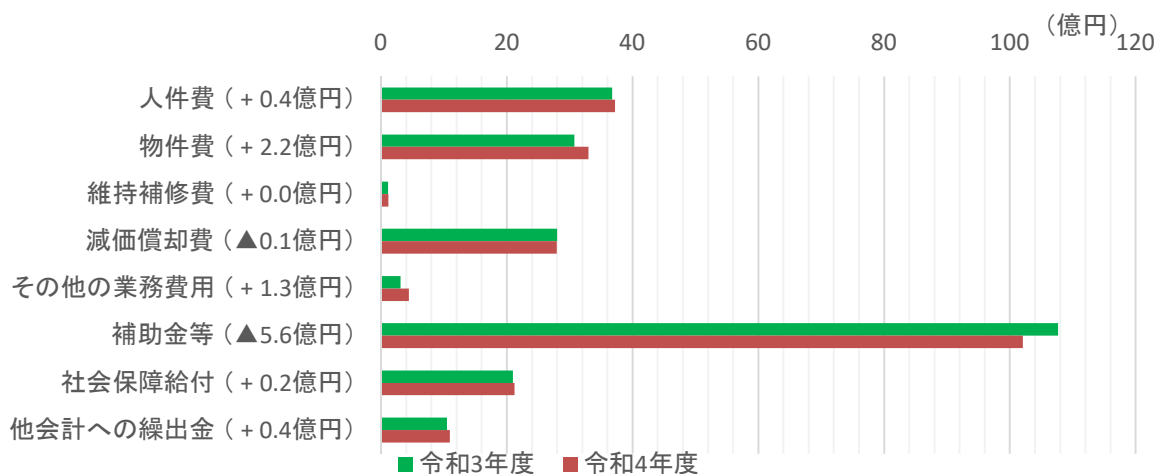
業務費用は、対前年度比全体会計が 3.9億円の増加(+3.9%)、連結会計で2.7億円の増加(+2.5%)となりました。

移転費用は、対前年度比全体会計が 5.3億円の減少(▲4.1%)、連結会計で2.1億円の減少(▲1.3%)となりました。

経常収益は、対前年度比全体会計が 1.5億円の増加(+10.2%)、連結会計で0.7億円の増加(+4.1%)となりました。

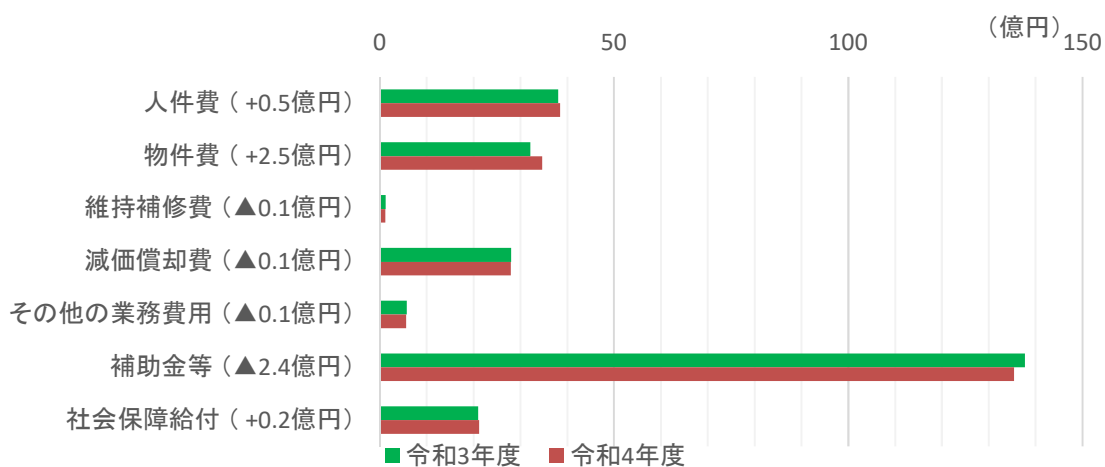
純行政コストは、対前年度比全体会計が 3.1億円の減少(▲1.4%)、連結会計で1.3億円の増加(+0.5%)となりました。

純資産残高は、対前年度比全体会計が 2.1億円の減少(▲0.4%)、連結会計で3.3億円の減少(▲0.7%)となりました。



経常費用比較(全体会計:億円)

注)他会計への繰出し金は、一般会計等の金額



経常費用比較(連結会計:億円)

7 資金収支(キャッシュフロー)計算書

資金収支計算書は、会計年度末時点における、愛川町の①業務(行政サービス)活動 ②投資(社会資本等)活動 ③財務活動に係る資金収支を明らかにすることを目的として作成しています。

業務活動収支

行政サービスを提供するための現金収支。

☞ 業務活動支出

職員給料の支払や物品の購入、補助金等、経常的な行政サービスを提供するために要した現金支出

☞ 業務活動収入

税収や行政サービスに係る国県からの補助金、及び使用料、手数料収入等

☞ 臨時収支

臨時的に発生した収入、支出に係る資金収支

投資(社会資本整備)活動収支

公共施設の整備、基金、貸付に係る現金収支。

☞ 投資活動支出

社会資本の整備、基金積立金、貸付等に係る現金支出

☞ 投資活動収入

国県からの社会資本形成に係る補助金、基金の取崩し、貸付金の元金回収、資産売却収入等の現金収入

財務活動収支

公債や借入金に係る現金収支。

☞ 財務活動支出

公債の償還や借入金の返済に係る現金支出

☞ 財務活動収入

公債の発行や金融機関からの借り入れに係る現金収入

	令和4年度(百万円)		
	一般会計等	全体会計	連結会計
業務活動収支	1,371	2,046	2,077
業務活動支出	12,161	19,876	23,574
人件費支出	3,485	3,716	3,845
物件費等支出	3,017	3,430	3,604
支払利息支出	24	138	139
その他の業務支出	191	243	312
補助金等支出	2,214	10,211	13,536
社会保障給付支出	2,123	2,123	2,123
他会計への繰出支出	1,092	0	0
その他の移転費用支出	15	15	15
業務活動収入	12,271	20,661	24,389
税収等収入	9,573	12,616	13,599
国県等補助金収入	2,134	6,443	9,001
使用料及び手数料収入	329	1,311	1,311
その他の収入	235	290	477
臨時支出	0	0	0
臨時収入	1,262	1,262	1,262
投資活動収支	(878)	(1,070)	(1,257)
投資活動支出	1,260	1,543	1,845
公共施設等整備費支出	635	1,034	1,296
その他	625	509	549
投資活動収入	382	472	588
国県等補助金収入	132	137	203
その他の収入	250	336	384
基礎的財政収支	776	1,311	1,153
財務活動収支	(501)	(805)	(687)
財務活動支出	882	1,643	1,693
地方債等償還支出	731	1,491	1,541
その他の支出	152	152	152
財務活動収入	382	837	1,007
地方債等発行収入	382	837	1,007
その他の収入	0	0	0
本年度資金収支額	(7)	170	133
前年度末資金残高	764	1,403	1,535
本年度末資金残高	757	1,573	1,673
本年度末現金預金残高	757	1,573	1,673

業務活動収支で生まれた資金余剰が、社会資本整備(投資活動)の原資となり、その資金収支過不足を財務活動により補填します。業務活動収支の余剰額が小さい場合は、財政構造が硬直化することになります。

住民1人当たり(千円)		
一般会計等	全体会計	連結会計
35	52	52
307	502	596
88	94	97
76	87	91
1	3	4
5	6	8
56	258	342
54	54	54
28	0	0
0	0	0
310	522	616
242	319	344
54	163	227
8	33	33
6	7	12
0	0	0
32	32	32
(22)	(27)	(32)
32	39	47
16	26	33
16	13	14
10	12	15
3	3	5
6	8	10
-	-	-
(13)	(20)	(17)
22	42	43
18	38	39
4	4	4
10	21	25
10	21	25
0	0	0
(0)	4	3
19	35	39
19	40	42
19	40	42

令和4年度末における業務活動支出は、全体会計が199億円、連結会計で236億円、業務活動収入は、全体会計が207億円、連結会計で244億円、となり、業務活動資金収支は全体会計が20億円の余剰、連結会計で21億円の余剰となりました。

投資活動支出は、全体会計が15億円、連結会計で18億円、投資活動収入は、全体会計が5億円、連結会計で6億円、となり、投資活動資金収支は全体会計が11億円の不足、連結会計で13億円の不足となりました。

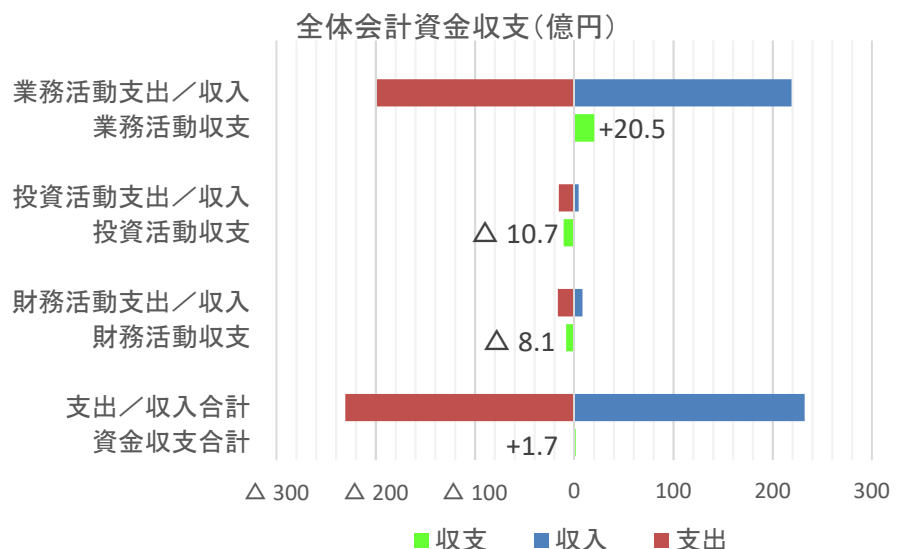
財務活動支出は、全体会計が16億円、連結会計で17億円、財務活動収入は、全体会計が8億円、連結会計で10億円、となり、財務活動資金収支は全体会計が8億円の不足、連結会計で7億円の不足となりました。

令和4年度における資金収支は、全体会計が2億円の余剰、連結会計で1億円の余剰となりました。

令和4年度における基礎的財政収支は、全体会計が13億円の余剰、連結会計で12億円の余剰となりました。

基礎的財政収支(プライマリーバランス)

業務活動収支と投資活動収支の合計から支払利息支出を除いて算出され、基礎的財政収支がプラスの場合は、業務活動(行政サービス)と投資活動(社会資本整備)の現金費用を料金収入で財源で賅った上で、既存債務の返済に一定の余力があることを示しています。



8 資金収支(キャッシュフロー)計算書(前年度比較)

	前年度差額(百万円)			増減率		
	一般会計等	全体会計	連結会計	一般会計等	全体会計	連結会計
業務活動収支	(139)	(71)	(96)	-9.2%	-3.3%	-4.4%
業務活動支出	44	(144)	104	0.4%	-0.7%	0.4%
人件費支出	50	62	67	1.4%	1.7%	1.8%
物件費等支出	186	185	148	6.6%	5.7%	4.3%
支払利息支出	(4)	(20)	(20)	-14.0%	-12.5%	-12.4%
その他の業務支出	126	157	120	195.8%	181.7%	62.6%
補助金等支出	(385)	(555)	(238)	-14.8%	-5.2%	-1.7%
社会保障給付支出	23	23	23	1.1%	1.1%	1.1%
他会計への繰出支出	44	0	0	4.2%	0.0%	0.0%
その他の移転費用支出	4	4	4	36.5%	36.2%	32.6%
業務活動収入	477	356	577	4.0%	1.8%	2.4%
税収等収入	310	397	409	3.3%	3.3%	3.1%
国県等補助金収入	76	(138)	151	3.7%	-2.1%	1.7%
使用料及び手数料収入	30	38	38	10.2%	3.0%	3.0%
その他の収入	61	59	(21)	34.7%	25.4%	-4.2%
臨時支出	0	(3)	(3)	0.0%	-97.1%	-97.1%
臨時収入	(571)	(573)	(573)	-31.2%	-31.2%	-31.2%
投資活動収支	266	287	411	23.3%	21.1%	24.6%
投資活動支出	(537)	(564)	(558)	-29.9%	-26.8%	-23.2%
公共施設等整備費支出	30	36	277	5.0%	3.6%	27.2%
その他	(567)	(601)	(835)	-47.6%	-54.1%	-60.3%
投資活動収入	(271)	(277)	(147)	-41.5%	-37.0%	-20.0%
国県等補助金収入	(178)	(192)	(129)	-57.4%	-58.4%	-38.9%
その他の収入	(92)	(86)	(18)	-27.0%	-20.3%	-4.4%
基礎的財政収支	(333)	(308)	(246)	-30.0%	-19.0%	-17.6%
財務活動収支	(278)	(194)	9	-124.7%	-31.8%	1.3%
財務活動支出	23	3	(92)	2.6%	0.2%	-5.2%
地方債等償還支出	22	3	(93)	3.2%	0.2%	-5.7%
その他の支出	0	0	0	0.1%	0.1%	0.2%
財務活動収入	(255)	(191)	(83)	-40.1%	-18.6%	-7.6%
地方債等発行収入	(255)	(191)	(83)	-40.1%	-18.6%	-7.6%
その他の収入	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
本年度資金収支額	(151)	22	324	-105.2%	15.0%	169.8%
前年度末資金残高	143	148	(184)	23.1%	11.8%	-10.7%
本年度末資金残高	(7)	170	138	-1.0%	12.1%	9.0%
本年度末現金預金残高	(7)	170	138	-1.0%	12.1%	9.0%

前年度差額 = 令和4年度決算金額 - 令和3年度決算金額

増減率 = 令和4年度決算金額 ÷ 令和3年度決算金額 - 1

令和4年度の業務活動資金収支は、対前年度比全体会計が 0.7億円悪くなり、連結会計で1.0億円悪くなりました。

業務活動支出は、対前年度比全体会計が 1.4億円の減少(▲0.7%)、連結会計で1.0億円の増加(+0.4%)となり、業務活動収入は、対前年度比全体会計が 3.6億円の増加(+1.8%)、連結会計で5.8億円の増加(+2.4%)となりました。

令和4年度の投資活動資金収支は、対前年度比全体会計が 2.9億円改善され、連結会計で4.1億円改善されました。

投資活動支出は、対前年度比全体会計が 5.6億円の減少(▲26.8%)、連結会計で5.6億円の減少(▲23.2%)となり、投資活動収入は、対前年度比全体会計が 2.8億円の減少(▲37.0%)、連結会計で1.5億円の減少(▲20.0%)となりました。

令和4年度の財務活動資金収支は、対前年度比全体会計が 1.9億円悪くなり(▲31.8%)、連結会計で0.1億円改善されました(+1.3%)。

財務活動支出は、対前年度比全体会計が 3百万円の増加(+0.2%)、連結会計で0.9億円の減少(▲5.2%)となり、財務活動収入は、対前年度比全体会計が 1.9億円の減少(▲18.6%)、連結会計で0.8億円の減少(▲7.6%)となりました。

基礎的財政収支は、対前年度比全体会計が 3.1億円の減少(▲19.0%)、連結会計で2.5億円の減少(▲17.6%)となりました。

